

平成28年度 山形県立農林大学校評価書

【運営方針1】教育カリキュラムの充実

【基本方向】卒業後の就業、就職等に向けた教育体制づくり		【評価基準】 A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分		
評価項目	評価目標	取組状況	評価	
(1) 国・県の重点施策を踏まえた学科及び講座の配置	1 林業経営学科の円滑な運営	① 林業経営学科の円滑な運営（新規） 今年度設置した林業経営学科について、現場で必要とされる実践的で専門的な知識・技術の習得により「やまがた森林（モリ）ノミクス」を担う林業の次世代リーダーの育成を図る。	1・・・B  (概ね計画どおり運営できた)	
	2 新たな加工商品の商品化 :1点	② 6次産業化に関する講座の実施（継続） 6次産業化の推進に向けて、全学生を対象に専門共通科目として「6次産業化」を設定し、制度や加工技術等について幅広く学習する。	2・・・B  (今年度開発した商品	
		③ 農産加工技術の習得（拡充） 新たにモツアレラーチーズの製造実習を加え、多様な農産加工の実習を拡充する。また、商品企画、特産品開発、商品パッケージ等についても学習する。	・試作したモツアレラーチーズの求評会を農大市場の来訪者を対象に実施した。また、今年度、新たに畜産及び農産加工両経営学科の1年生を対象に乳製品加工実習を実施し、モツアレラーチーズの製造を行った。	・求評会で実施したアンケート調査には、234名から回答があり、食味等は良好との結果を得た。また、乳製品加工実習においては、多くの参加学生が興味を持った。次年度は卒論テーマとして取り組む計画である。 ・さらに次年度は、1年次に専攻以外の学科について学ぶ「副専攻基礎実習」を開設し、この中で、全学生が農産加工技術を学べるようする。
(2) 実践教育を重視した学習体系やインターンシップの充実	先進農林業者等体験学習の受入れ農林業者等の評価 :良好との評価80%	① 先進農林業者等体験学習等の実施（拡充） 先進農林業者等体験学習は、1学年で前期と後期に10日間ずつ実施し、先進的農林業者、農業法人、農業・食品関連企業、森林組合等において、実践的な技術を学び、優れた経営感覚に触れる。また、後期の体験学習では、就職希望学生（法人就農も含む）をインターンシップに派遣し、実践教育の充実を図る。	B  (先進農林業者等体験学習の受入れ農林業者等の良好との評価80%)	
		② 2年生のインターンシップの導入（実施） 2年生において、就職希望及び就職希望学生（法人就農も含む）が高度な栽培技術や実践的な学習を希望する場合、インターンシップを実施する。	・就職希望の野菜経営学科の学生が農業法人、畜産経営学科等の学生が食肉公社や牧場でインターンシップを行った。	
(3) 組織や法人との連携強化による先進技術等の研修の充実	1 研修の実施数 :50回	① 先進農林者研究の実施（充実） 先進的経営に取り組み県内外の農業法人や組織を視察し、現地で優良事例研修を実施する。今年度は、新たに林業関係の先進事業体の視察研修を実施する。	1・・・B  (研修実施数53回)	
	2 林業関係の研修調査の実施 :10回	② 学科毎の組織や法人と連携した研修の充実 管内の優良法人等への視察研修を実施する。林業経営学科では森林組合等の協力を得て、高性能農林業機械の操作等の研修を実施する。	2・・・A  (林業関係の研修調査の実施数15回)	
自己評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>林業経営学科の学習内容は多岐にわたるが、学生の知識、技術習得や資格取得には計画どおりに取り組むことができた。また、新設講座である「6次産業化」では、学生は農林業の各分野について幅広く学んだが、次年度は優良事例実践者等を講師に迎え、より実践的な内容を目指していく。</li> <li>「6次産業化」や「耕畜連携」を推進するため、来年度は専攻以外の分野について学ぶ「副専攻基礎実習」を開設する計画である。</li> <li>先進農林業者体験学習は、学生が先導的な農林業経営者に学ぶ機会であり、インターンシップは、学生が卒業後のより良い進路を選択する機会であるため、今後とも充実を図る必要がある。</li> </ul>	評価	B
学校関係者評価(意見・要望等)→現在の取組状況・次年度の改善策		<ul style="list-style-type: none"> <li>森林組合では林業経営学科の実習を受入れているが、次年度は2学年体制となり学生数が増えることから、実習時の安全を確保するため、事前に研修の内容・人数などを十分相談してほしい。また、インターンシップの受入れ人数や内容についても連携を密にしてほしい。→次年度、実習時の同行職員を増員し、安全確保に取り組む計画である。また、林業経営学科のインターンシップについては、今年度の実施状況を取りまとめ、次年度以降の参考資料としていただけるよう受入れ先に送付している。</li> <li>林業経営学科の1期生の進路をしっかりと確保してほしい。→関係機関と連携して各林業事業体との就業相談会を実施するとともに、インターンシップを実施し、事業内容と学生の適性を確認しながら進路確保に取り組んでいく。</li> <li>加工品の商品開発では、今後の学習に活用できるよう、ねらいや製造方法を記録して教材化してはどうか。→農産加工経営学科では、まず商品のマーケティング調査を実施し、新商品開発に取り組んでおり、原材料の栽培履歴の記載、写真やビデオ機器を使った製造方法の記録を行っているので、これらを次の商品開発に生かしていきたい。また、より付加価値を高めた農産加工品を「農大ブランド品」として認定している。これは、主原料となる果実や野菜は学生自ら栽培した農大産を使用し、添加物（香料等）の不使用等の製造基準を設け、適合した農産加工品を認定しているところである。</li> </ul>	評価	B